

TIC NEWS

vol. **133**
2019.10

(公財)とやま国際センター

〒930-0856 富山市牛島新町5-5
インテックビル4F(タワー111)

TEL(076)444-2500

FAX(076)444-2600

E-mail: tic@tic-toyama.or.jp

URL: <http://www.tic-toyama.or.jp>



SDGs(持続可能な開発目標)に関するグループワーク(とやま国際塾)

～とやま国際塾～

今年で18回目の開催となった“とやま国際塾”。県内の高校生、海外技術研修員、留学生などが参加し、楽しい夏の思い出となりました。

とやま国際塾

日時：令和元年7月14日(日)～15日(祝・月)

場所：呉羽少年自然の家他

18回目を迎える今年度のとやま国際塾は、県内17名の高校生と、8か国16名の留学生、海外技術研修員等が参加し、お互いに交流を深めました。

初日はみな緊張していた様子でしたが、自己紹介やゲームを通して緊張がほぐれた後は、英語や簡単な日本語でお互いの国について質問をしたり、一生懸命コミュニケーションをとったり、積極的な様子うかがえました。

午後からは、アメリカ出身の影絵パフォーマーJack Lee Randall氏を講師に迎え、英語で講演いただいた後、グループに分かれて影絵のワークショップを行いました。作り方の説明は英語で行われたため、なかなか理解が難しい場面もあったようでしたが、一緒にグループの留学生が日本語で説明したり、身振り手振りでお互いに伝えあったり、最後にはグループ一体となって影絵を完成させることができました。

英語での講演の後は、NGOダイバーシティとやま代表の宮田妙子氏をコーディネーターに、国際交流員や留学生、研修員を交えたグループに分かれ多文化共生に関するグループワークを行いました。

2日目はJICA国際協力推進員の吉田詩甫子氏にJICAの事業や国際協力についてお話いただき、その後SDGs（持続可能な開発目標）に関するグループワークを行いました。日本、そして各国参加者それぞれの視点から国際協力について意見を述べ、各国の違いや共通点等の理解を深めました。また、青年海外協力隊としてバングラデシュで活動された山崎透氏を講師に迎え、現地の文化や教育制度と支援の在り方についての葛藤や、それを通して得られた異文化理解の面白さ、共生・協働作業することの面白さについても語っていただきました。協力隊に興味のある学生も多くおり、実りある2日間となったようでした。



影絵パフォーマーのジャックさん

災害時外国人支援のための防災訓練事業

今年度も当センターでは、災害時外国人住民を支援するボランティア人材を確保・育成する研修会を実施し、研修成果の実践として大規模災害を想定した県の総合防災訓練に参加しました。

災害時外国人ボランティア研修「やさしい日本語コース」

7月6日(土) 黒部市国際文化センター

講師：日本語教育機関トヤマ・ヤポニカ

参加者：計21人

災害時外国人ボランティア研修「多言語翻訳コース」

7月20日(土) 黒部市国際文化センター

講師：富山県国際交流員等

参加者：13人

広域連携による災害ボランティア研修

7月27日(土) 石川県国際交流センター

広域連携を想定した石川県、福井県と合同の実践的な研修・訓練

講師：多文化共生マネージャー全国協議会理事 柴垣 禎氏、麻田 友子氏

参加者：41人

災害時外国人支援研修「自治体職員等担当者コース」

8月9日(金) 富山県民会館

講師：(一財)ダイバーシティ研究所代表理事 田村 太郎氏、日本語教育機関トヤマ・ヤポニカ

参加者：14人

富山県総合防災訓練への参加

9月29日(日) 黒部市総合体育センター

講師：特定非営利活動法人 安芸高田市国際交流協会 理事・事務局長 明木 一悦氏



国際交流員より着任のご挨拶！

ホアン・ティ・チャム さん（ベトナム）

Xin chao (シンチャオ)！皆さん、こんにちは。ベトナムのハイフォン市から参りましたホアン・ティ・チャムと申します。今年の8月から富山県庁国際課で初めてのベトナム人国際交流員として仕事をさせていただきますことになりました。

大学卒業後、最初は仕事のために日本語を勉強し始めましたが、勉強すればするほど、日本語だけでなく、日本文化についても大変興味深くなり、日越大学大学院に入り、日本研究を専攻していました。大学院在学中、東京大学にインターンシップとして来日したことがありますが、帰国後、教科書にも書かれていない実際の日本をもっともっと体験したいと思って、今回は国際交流員として富山に初めて参りました。

着任後、オリエンテーションとして立山登山に挑戦させていただきました。私は自然に触れるのが好きなので、標高3,003mの山頂に着いたとき、立山の絶景が目の前に広がり、言葉では言い表せないほど感動しました。これから、ぜひ雨晴海岸、立山黒部アルペンルート、黒部ダム、雪の大谷、五箇山合掌造りといった景勝地を訪れたいと思います。富山に来たことのないベトナム人にも富山の自然の素晴らしさを体感してほしいです。そして、反対に、ベトナムの魅力もベトナムに行ったことのない日本人に向けて発信したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



オレグス ピシュチコフス さん（ラトビア）



読者の皆さま、こんにちは！ラトビアから参りましたオレグスと申します。今年8月から県庁のロシア語国際交流員として着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

生まれ育ったのは中欧、北欧、東欧の文化が交わる小さな国です。歴史を通じて「バルト海への窓」として見られ、幾度となく戦場の土地となりました。その理由でラトビアではどこに行っても様々な文化の融合とその遺産がみられます。このように多様な文化に親しんできた私にとって、エキゾチックな日本のような国に興味をもったのも自然な流れでした。

2005年にラトビア国立大学のアジア研究部に入学し、日本をはじめ、東・東南アジア諸国の文化、人類学など広い分野の科目を勉強しました。在学中、一年間関西外国語大学に留学しました。卒業して、同大学の大学院に入学しました。二回目の留学経験は大阪大学でした。帰国してから日本で過ごした日々が懐かしく思いだされ、いつか必ず日本に戻ると決心をしました。

2014年からラトビア国立図書館の東アジア研究センター閲覧室の書誌学者の仕事に携わってきました。その仕事のひとつとして、来館者に様々なイベントにおいて東アジアの文化を紹介していました。そして毎月担当した折り紙ワークショップを通してもっと日本の文化に親しみ、より一層日本に行きたくくなりました。

現在、国際交流員の勤務内容は主に日露翻訳・通訳、ロシア語講座の講師、県内在住ロシア人への相談やロシアと日本の交流の推進に関する仕事です。あわせて世界ではあまり知られていない小さなラトビアのことについて富山県の方々にお伝えできればと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

富山県・遼寧省友好提携35周年

富山県と中国 遼寧省は1984年に友好県省が締結され、今年で35周年になります。今年度は35周年記念として様々な交流事業が行われています。5月には遼寧省から日本語を学ぶ大学生40名が訪れ、県内の大学生と交流を行いました。9月には29人の大学生が瀋陽市、大連市の視察、瀋陽師範大学、大連外国語大学の学生との交流を目的に遼寧省を訪れました。

魏 玓玓 さん（大連外国語大学）

富山県への4日間の旅行はあっという間に終わりました。富山県での見聞は数えきれません。私は日本が初めてなのですが、とてもいい印象が残りました。まずは富山県の風景を見て、とても感動しました。バスに乗っていた時は、まるで緑の世界を走っているような気がしました。富山県の街道、大学、至る所が全部きれいで、とても感心しました。二日目に五箇山を訪ねました。印象深い場所です。そこで友達とたくさんの写真を撮って、「日本の農村生活っていいな」と思いました。

そして、富山県民もみんな熱心で、温かい人だと感じました。私たちは日本語専攻ですが、実際に日本人と交流するとなると、やはり私の日本語能力は今一つでした。買い物や道を聞くと、富山の人は私が外国人と分かるとすごく優しく接してくれました。私は日本で自分の家にいるような温かさを感じることができました。

最後に、私は日本で泊まったホテルのことを書きたいです。自分は中国のホテルも韓国のホテルにも泊まったことがあります。しかし日本のホテルではちょっと違う印象を持ちました。空間がそんなに広くないんですが、あるべきものは全部置いてあります。エレベーターに入るといつもみんな静かでした。

4日間の時間は短かったですが、皆さんのおかげで、しっかりと富山県の魅力を感じることができました。是非また家族と一緒に富山県に来たいです。



三浦 香凛 さん（富山大学）

秋の始まりを告げる涼しい風が吹く9月の初めに私は富山県と中国遼寧省の友好締結35周年事業に参加しました。

初日に遼寧省人民政府主催の歓迎レセプションに参加し、豪華な夕食が振る舞われました。中国では食べきれないほどの量の料理を出すのが礼儀だということです。その日の夕食はまさに食べきれなく、食材を浪費してしまうことに申し訳なさを感じましたが、現地の方々の歓迎の意を感じ、感銘を受けました。

2日目は日本国総領事館で日本人職員の方からお話を伺うという貴重な経験ができました。市役所や民間企業等からの派遣職員など多様な方が働いていることを知りました。就職した後にも様々な選択肢や道があることがわかり、私の働くことに対する価値観が変わりました。

3日目は大連外国語大学の学生と交流を行いました。2日目の瀋陽師範大学の交流の時もそうでしたが、中国人の学生たちの目の輝きがとても印象的でした。彼らの目から、日本が好きで日本語を勉強し、日本人と会えるこの日をとても楽しみにしてくれていたことを感じました。日本の漫画やアニメ等の文化、落ち着いていて礼儀正しい国民性等に対して好印象を持っていることがわかりました。また学生のほとんどが会話に問題ないレベルの日本語を身につけていることに驚きました。私は台湾での交換留学で身につけた中国語で学校紹介をしました。うまく伝えることができたか不安でしたが、発表後に現地学生から「発表がとても良かったよ。」「汉语说得真好。（中国語がとても上手。）」等の声を耳にして、とても嬉しかったです。

日本の中国に関する報道は日本製品の模倣品の販売、空気汚染などあまりいいものではありませんでした。私の周りには中国に対して偏見を持っている人が少なからずいます。しかし、日本にいて知ることのできる中国は基本的にメディアからだけで、現地の人と深く交流することは困難です。だからこそ、この事業に参加し、中国に対する見聞を広めた私たち学生の体験は得がたく、富山県代表の一人としての誇りと責任を持ち、より多くの人たちに自分の経験を伝えていきたいと思いました。また、このような外国訪問や現地の方々との交流は、互いの国における経済的文化的発展に貢献すると思います。これからも海外との交流事業が積極的に行われることを強く願います。



川淵 綾音 さん（富山国際大学）

私は今回現地の学生たちとの交流や、中国の歴史ある施設の見学を通してたくさんのことを学ぶことができました。その中でも特に思い出に残っている2つのことについて書きたいと思います。

まず一つ目は在瀋陽日本国総領事館に訪問できたことです。領事館では日本と中国の関係や一般事情、大連市と日本との関係などについても学びました。それ以外にも働いておられる職員の方々から、働こうと思った理由や、仕事内容、やりがいに感じていることを聞くことができました。私は将来小学校教員になりたいと思っていましたが、領事館の職員さんの話を聞いて、他の国の言葉も話せるようになれば日本と世界をつなぐ架け橋としてやりがいを感じることができるとなるんだなと思い、今まで以上に外国語の勉強を頑張って将来の選択肢をもっと広げられるようになりたいなと思いました。

二つ目は現地の大学生との交流です。2日目は瀋陽師範大学の学生と、3日目は大連外国語大学の学生と交流することができ日本で放送されていたドラマが中国でもネットで配信されていることを知り、みんなで犯人を予想してとても盛り上がりました。また大連外国語大学の学生と大連の夜景を見に行った時は近くの遊園地を紹介してくれたり、学校に帰った後、学校の敷地内を案内してくれたりしました。研修が終わった今もSNSを通してメッセージを取り合っていてとても良い関係を築くことができたと思います。

最後に、この研修を通して学んだ多くのことをこれからの生活に生かしていきたいと思います。またこのような研修があったら参加したいです。そのためにこれから中国語など外国語の勉強を頑張りたいと思います。



国際交流員 斉 東亮 さんに聞くー“遼寧省のあれこれ”

Q. 遼寧省のお薦めのところはどこですか？

A. 富山から大連へは直行便で行くことができます。大連は日本人、日系企業も多く、海に近くて空気もよい所です。そこから高速鉄道で2時間あまりで行ける内陸の瀋陽は遼寧省の文化・経済の中心で、故宮などの歴史的な名所もあり、また大型ショッピングモールもあります。遼寧省には他にも面白い特徴を持った都市があるので、各地域の見所、美味しい料理も堪能してみてください。遼寧省は果物や野菜の種類が日本より豊富で、ドリアンなどまず日本で見られないものも安く買うことができますよ。



Q. 斉さんはどのように日本語を習得されたんですか？

A. 私の父は大学で日本語を勉強して日本にも何度か行ったことがあり、自分にも日本語を学ぶことを薦めてくれました。また、私が通った東北育才学校には日本語クラスがあって、富山県から派遣されていた教員が日本語を教えてくれました。学校でペギー葉山の“学生時代”を日本語で合唱したのも良い思い出です。高校を卒業後に京都に留学したんですが、留学する前は、日本ではみんな和服を着て下駄を履いていると思っていました(笑)



種類が豊富な果物売り場

Q. 2人の息子さんをお持ちですが、中国の育児と教育事情は日本と似ていますか？

A. 小学生の息子は中国の寄宿学校に入っていて、朝6時半から17時まで勉強、夕食の後はまた20時半まで自習するという生活です。土日は数学や英語などの塾にも通っていますので日本の小学生よりは忙しいかもしれません。確かに私の小学生時代よりもずっと忙しい生活を送っていますが、中国も日本と同じく受験社会なので、小学生は人生のスタートラインということ

で、次につながるベースを作るために非常に大事な時期と捉えています。一人っ子政策は2015年いっぱいまで廃止されましたが、中国は教育にお金がかかりますし、親の介護を介護施設ですということはまだ一般的になっていないので、親の面倒もみて、さらに二人以上の子供を育てるのは働く夫婦にとってはかなり負担があります。

Q. 京都で6年間の学生生活を送り、中国で経済・貿易関連の仕事をされ、再度富山に国際交流員としていらっしゃった斉さんですが、日本の職場はどうですか？

A. 一般的には中国社会では人間関係が7割、仕事が3割の重要性を占めるとすると、日本ではその逆で7割が仕事、3割が人間関係という印象を持ちました。中国は非常に人間関係を大事にする社会です。人とのつきあい、関係性、そして自分自身の高い人間力があって初めて仕事を任せられ、評価され、信頼に結び付き、さらに人間関係が広がり出世していくという感じですね。また日本では仕事の上下関係がはっきりしていて上司に自分の考えを言わなかったり空気を読む人が多いですが、中国では自分の思いを率直に言いますので、言い合いになったりすることがあるものの、職場の雰囲気は日本より和やかな感じでした。



東北育才学校

Q. 斉さんの専門は経済ですが、中国人と日本人の購買傾向を比べるとどうですか？

A. 中国人というと“爆買い”というイメージがあるかもしれませんが、実は日本人と同じく、緻密に価格を比較してから購入しているのです。とりあえず日本にくると、今は使わなくてもストックとして化粧品を買うという中国女性が多いと思います。化粧品と言えば大連には化粧品売上高中国1位と言われる大商集団の本社があり、遼寧省の女性もお洒落に関心が高く、きれいな人が多いと言われています。また中国はネットショッピングが盛んで、注文した翌日にはもう配送されます。配送先は職場にするケースがほとんどです。日本のように家に届くようにはしないので何度も再送してもらうということをしなくて済む訳です。



大連の化粧品売り場

JICA 海外協力隊経験者×教師海外研修参加者

国際理解出前講座 授業力UPセミナーを開催しました！

7月27日(土)、TICとJICA北陸の共催で、国際理解出前講座授業力UPセミナーを開催しました。

普段は出前講座の講師として活躍しているJICA海外協力隊経験者の皆さんと教師海外研修に参加されて国際理解教育を実践している県内の教員が一緒になり、より質の高い出前講座ができるように学びあいました。



セミナーでは、「キャリア教育」をテーマに参加者がアイデアを出し合い、授業案を考えたり、参加者が出前講座の受講者役となり、現任教員による模擬授業を受け、その後、講座を受けた感想や改善点について意見交換を行ったりしました。出前講座をする側の視点だけでなく、出前講座を依頼する側の視点も学べたことが大きな収穫となったようです。



国際理解出前講座のお問い合わせ・申込みはこちらから↓

- (1) 国際交流・異文化理解コース(講師:富山県国際交流員など)

(公財)とやま国際センター 担当:中村

TEL:076-444-2500 / FAX:076-444-2600 / E-mail:tic@tic-toyama.or.jp

- (2) 国際協力コース(講師:JICA海外協力隊経験者など)

JICA北陸富山県デスク 担当:吉田

TEL:076-464-6491 / FAX:076-464-6491 / E-mail:jicadpd-desk-toyamaken@jica.go.jp



今回はドミニカ共和国から届いた青年海外協力隊員 上坂 恭平 さんからの便利をご紹介します。

オラ！(スペイン語でこんにちは)。ドミニカ共和国に派遣されている上坂恭平です。

朝は車のクラクションで起こされ、夜中は近所のスーパーで大音量の音楽とともにみんなが楽しく踊ってビールを飲んでいる国。私はそんな国ドミニカの環境財団に配属され、公園や川のごみ拾いや、小学校に行き環境問題についての講義を行っています。しかし、ドミニカ人のゴミへの意識はとても低いです。家庭ではゴミを分別しません。紙、ペットボトル、ビン、全て同じ袋に入れます。また、ゴミをゴミ袋に入れず、そのまま路上や庭に捨てる人も少なくありません。

今年の6月より、私が通っている小学校の子どもたちと一緒に有機野菜を栽培したいと思い、学校菜園プロジェクトを立ち上げました。なかなか資金や資材が手に入らず苦労していますが、子どもたちと楽しく野菜栽培を学び、ここで育てた野菜を日本食などに料理することで異文化交流にもなれればと考えています。活動を通して日本にも興味をもってもらえるよう頑張りたいと思います。



上坂 恭平さん(左から2人目)

派遣国:ドミニカ共和国

職種:野菜栽培

派遣期間:2018年7月~2020年7月

配属先:ドミニカ環境財団

キム・ジュヒ さん（韓外国語大学 通訳大学院 修士課程）

Q. 近況について教えてください。

A. 2017年に帰国して「JETAA大韓民国支部」というJETプログラム卒業生の会の代表を2年間務めました。JETAA大韓民国支部では、日韓における民間交流や韓国国内でのJETプログラムの広報などに取り組んでいます。毎年「日韓交流スピーチ大会」を開催していますが、ソウルでの本選大会に日本から飛んできて参加される方もいました。富山の方々にもお伝えして、ぜひ参加していただきたいと思いました！また、去年から韓国のソウルにある大学院で日韓の通訳と翻訳の勉強をしながら、プロの通訳士を目指しています。再び学生に戻って、まるで自分の大学時代に戻ったような新鮮な感覚です。（もう10年も前の事ですが…笑）歳の離れた同期の子たちと勉強するのも、とても良い刺激になります。2年生になってからは、同時通訳の本格的な訓練に入りました。もちろん思い通りにはいかないこともありますが、楽しみながらありがたく勉強しています。また、たまに通訳や翻訳の仕事の依頼が入ることもあり、学業と両立させながら頑張っています。ちなみに、韓国の大学は、3月に春学期が、9月に秋学期が始まります。今学期が最後なので、正直寂しい気もします。



JETAA韓国支部代表の任期を終え、感謝状を渡されるキムさん

Q. 富山とはどんな結びつきがありますか？

A. 2014年度から2016年度までの3年間、富山県国際課の国際交流員を務めていました。大学時代、東京と神戸で暮らしたことはありますが、富山は初めてでした。「どんなところかな～」と新生活にワクワクしながらも、心のどこかには心配や不安もあったと思います。でも、富山で生活しているうちにすっかり富山の魅力にはまってしまいました。

TICでは、韓国語講座（中級）を受け持っていました。大学院で勉強して、富山で経験した仕事がどれだけ貴重なものだったのかを実感しました。通訳や翻訳、電話対応といった仕事はもちろん、今の勉強の糧になっていますが、韓国語講座、国際理解出前講座、JET世界祭りなど、人との出会いのある本当に大切な思い出がたくさん詰まった3年間でした。富山での3年間のことが昨日のことのように感じられながらも、懐かしく思えます。



通訳ブースで同時通訳の実習をする

Q. 最後に富山の人に一言メッセージをお願いします。

A. 最近、日韓関係がギクシャクしていますが、長い付き合いの歴史を持っている隣同士なので、近いうちにきっと仲直りすると信じています！韓国に戻った後、2018年1月に富山に一度帰ってきて、それから更に、1年半ほど経ちました。富山の昆布締め、富山湾のきときとのお魚が無性に食べたくなっちゃいました！また遊びに行きますので、それまでみんな元気でいてくださいな～

こんな“国際交流”やっています！

おとぎの森学習支援教室

高岡ポルトガル語講師会（高岡市）

～TICから助成した事業をご紹介します～

ブラジル人児童・生徒の学習支援を目的に平成29年1月に発足し、毎週土曜日におとぎの森ふれあい館で活動しています。

教室は児童・生徒の学習レベルにより4コースに分かれており、毎回10人以上の学習者が参加しています。日系ブラジル人で代表兼講師の赤沢さんは「児童・生徒の母国語でコミュニケーションをとったり、学習したりすることで、子供たちだけではなく、保護者と講師の間の信頼感や協調性が増し、カルチャーショックを和らげることができる」と語ります。生徒の1人は県立高校への入学試験にも合格し、学習者の良い目標にもなっています。近隣の日本人夫婦から借りた畑で農作業も行うなど、日本語学習だけではなく地域の日本人との交流、日本文化に触れることなども活動に取り入れ、地域に根差した教室を目指しています。



ข้าวผัดกะเพรา ガパオライス

ガパオライスは簡単に費用をかけずに作れるタイの有名な食べ物です。人気の秘密はガパオというタイでよく食べるバジルの葉です。バジルは肉、魚、豆腐などと炒めて食べることが多く、肉の場合は豚肉がよく使われます。

～作り方～

1. 豚肉はバラ肉かロース肉を細切りしてから叩き切りしてひき肉状にする。
2. 赤唐辛子とニンニクを石臼で潰す。
3. ガパオの葉は洗って水気を切っておく。
4. 油を熱したフライパンで、赤唐辛子、ニンニクを炒める。1～2分後に肉を入れて全体に火が通るまで2～3分炒める。炒めすぎて肉が固くならないように注意する。
5. 調味料、赤パプリカ、ガパオの葉を順に入れて混ぜて出来上がり。ご飯にかけて頂きます。



～材料～(2人分)

豚肉	100g
赤パプリカ	1/2個
ガパオの葉(バジル)	一つかみ
赤唐辛子	2本
ニンニク	大1片
油	少量
ご飯	適量
【調味料】	
オイスターソース	小さじ1
砂糖	小さじ1
シーユーカーオ(薄口醤油)	小さじ1/2
シーユードム(甘めの濃口醤油)	
	小さじ1/4
ナンプラー	小さじ1/2



TICからのお知らせ

これからの行事予定

外国人のための防災講習会

10月13日(日)

- ・講演「かけがえのない命を守るために」
NPO法人レスキューストックヤード 代表理事
栗田 暢之 氏
- ・災害体験
14:00～17:00 富山県広域消防防災センター

アセアン講座 第4回 ～ミャンマー～

10月19日(土) 13:30～15:00

(公財)とやま国際センター 研修室
「黄金の国ミャンマーの“おもてなし”」
講師：東京外国語大学

非常勤講師 ナン ミャ ケー カイン 氏

日本語ボランティアスキルアップ研修会

10月26日(土) 13:30～15:30

環日本海交流会館 大会議室
「ベトナム籍住民と共に歩むために
ーベトナム人の言語と学びを理解するー」
講師：金沢大学国際機構 准教授 松田 真希子 氏

国際交流フェスティバル

11月10日(日) 10:30～16:30 富山駅・CiCビル
外国人カラオケ大会、ロシア語スピーチコンテスト等

日本海学講座

11月30日(土) 14:00～15:30

富山県民会館611号室
「富山売薬の葉 ー江戸時代を中心にー」
講師：富山市売薬資料館 学芸員 兼子 心 氏

富山県外国人ワンストップ相談センター

富山県外国人ワンストップ相談センターが6月18日にインテックビル4階の(公財)とやま国際センター内に開所しました。

同センターでは、外国人の方々に日常生活の悩み、わからないことなどをお気軽に相談していただくことができます。また、外国人の方との関わりの中で手助けが必要だと感じている日本人の方にも利用していただけます。

開所以来3か月で県内外から162件の相談を受けています。英語、中国語、ポルトガル語、ベトナム語、韓国語、ロシア語、テルグ語については、相談員が対応します。それ以外の言語についてもタブレットや翻訳機で対応できます。

身の回りにお困りの方はいませんか。是非、当センターにお問い合わせください。

受付……来所または電話(通常の電話料金がかかります。)
月曜日～金曜日(祝日を除く)9:00～16:00

電話番号 076-441-6330
076-441-5654 (三者通話用)



(公財)とやま国際センター創立35周年！

11月2日(土) 14:00～16:30

パレブラン高志会館2階カルチャーホール

【記念式典】

表彰式：県知事表彰、とやま国際草の根交流賞

【県の施策説明】

富山県外国人材活躍・多文化共生推進プラン

【記念講演】

“多文化共生の推進について”
サヘル・ローズ氏(女優/タレント/イラン出身)

(公財)とやま国際センター賛助会員募集及びご寄付のお願い

公益財団法人とやま国際センターは、民間レベルの国際交流、国際協力を推進するため、様々な事業に取り組んでいます。TICの事業にご支援いただける賛助会員の方を募集しています。

年会費(1口) 個人会員 3,000円
団体会員 30,000円